

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1071
施設名	中葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区中葛西6-17-15
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

木製玩具を使った活動からのイメージーションの広がり

<テーマの設定理由>

- ・木製玩具に親しみをもち、遊びを通じて豊かな表現力や発想力、集中力を養う
- ・個から集団遊びへ発展した中で協同性が育まれ、イメージや気持ちを共有する楽しさを感じる
- ・創造性豊かな思考により、やってみようのころ、かんじるころを育むことができる

2. 活動スケジュール

9月：園の職員1名が代表で年齢に応じたカプラの遊び方を研修等を通じて学ぶ、そのクラスからまずはカプラを使った活動をやってみる
10月：カプラを使った活動のポイントや遊び方、子どもの様子等を全職員で共有し各クラスでカプラを取り入れた活動を行う（その後に、活動の様子を共有する）
11月～：日々の保育の中でカプラを使った遊びを楽しむ
（4・5歳はクラスで1つ、何か大作に取り組めると良い）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・広く活動できる場所
- ・カプラ4400ピース
- ・積み重ね方のイラスト集や写真の掲示（幼児クラス）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・園内で共有した内容などを基に各クラスで室内遊びの活動時間や自由時間にカプラの活動を取り入れる
- ・4・5歳児は、カプラの基本的な置き方を分かり易く伝える
- ・自由な発想でのびのびと取り組める環境を設定する
- ・個人で楽しむ遊びから集団で協力しながら取り組む、遊びの発展、広がりを楽しむ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) 乳児クラスは、カプラ同士が当たる音や触って感触を楽しんだり、並べたり積み重ねたりしていた。友達の遊び方に興味を示したりカプラの木箱に描かれていたイラストを見て、保育士と見よう見真似で積んで遊んだり坂道や階段を作りビー玉を転がす等、遊びが広がり発展していた。他の玩具と組み合わせる遊びも楽しみながら取り組んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

カプラは形が統一されているシンプルな玩具であるが、工夫次第で様々な遊びを楽しめることを知った。幼児クラス向けの玩具であると思っていたが、乳児クラスでも十分に遊ぶことができ、子ども達の発想の面白さや創造力豊かな姿に驚いた。個の遊びから集団の遊びに発展していくと其々のアイデアが混ざり大作が完成した時の達成感、喜びは大きい。ピースの量も沢山あった事で自由に思い描いた作品になり充実して良いと感じた。